

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和4年2月

（1）与論島の耕畜連携実証成果，高評価を得る！（R4.2.9）

2月9日，令和3年度与論島で進めてきた耕畜連携実証の実績検討会を開催し，実証農家，関係機関等20人が参加しました。

耕種部門では，さとうきびの収量・糖度調査，土壌への影響，耕畜連携の費用対効果について，畜産部門では，牧草収量・成分調査，敷料の有効性と堆肥化について検討しました。

全実証で概ね良好な結果が得られ，実証農家も取組を高く評価しており，継続に意欲的です。与論島ではこの取組の島全体への普及を目指しており，農業普及課は支援を続けて参ります。



（2）沖永良部のグラジオラスが県フラワーコンテストで最優秀賞，今後の産地活性化の起爆剤に（R4.2.3）

沖永良部は，全国有数のグラジオラス産地ですが，近年，生産者の減少や連作障害等により，その生産量は減少傾向にあります。そこで農業普及課は，数年前から栽培実態の把握，品種試験や栽培管理の見直しに取り組んできました。

その結果，今年度は品質良好で，安定的に出荷されており，2月3日に開催された県フラワーコンテストでは，知名町の田尻博樹氏が特別賞の中で最優秀賞にあたる農林水産大臣賞を受賞しました。

今回の受賞が産地の活性化の起爆剤になることを期待するとともに，農業普及課では引き続き安定生産に向けた支援を行って参ります。



県フラワーコンテスト特別賞受賞（県民交流センター）



最優秀賞
農林水産大臣賞

(3) スプレーギク研修会で新品種・赤色LEDによる害虫対策・自走式無人防除機の活用を学ぶ (R4.2.21)

2月21日、和泊町実験農場で秋スプレーギク2月開花の現地検討会が開催され、生産者、関係機関あわせて14人が参加しました。

秋スプレーギクの62品種・系統の品質評価の結果、10品種・系統がスマートフラワーに適していると選定されました。また、赤色LEDによるアザミウマ類対策の実証では被害が3～8割減少する結果が得られました。

参加者から「今後も継続して新品種や新技術の導入支援を進めてほしい」という声上がり、農業普及課は引き続き産地のニーズに応じた支援を行って参ります。



(4) ブランド統一を目指しばれいしょ「春のささやき」合同出荷会議開催 (R4.2.6)

2月6日、知名町あしびの郷で知名町・和泊町園芸振興会合同の出荷会議が開催され、両町の町長、各生産団体代表、関係機関、市場関係者（Web参加）の66人が出席しました。

令和3年度からJAあまみとして、徳之島のばれいしょとのブランド統一を目指すために合同開催となったもので、両町生産者部会が協力し、共販量8,000 t、共販額20億を目指すことが決意表明されました。農業普及課ではブランド統一に向けた支援に取り組めます。

(5) 和泊町花き品評会、露地栽培ユリ「凜（りん）」にも注目 (R4.2.9)

2月9日、和泊町やすらぎ館において、和泊町花き品評会が開催されました。農業普及課、島内関係者及び生産者代表が審査員となり、5部門108点を審査し、最優秀賞にキクの「舞風車（まいふうしゃ）」（有馬尚吾氏）が選ばれました。

また、ユリ部門金賞の和泊町育種品種「凜」は、露地栽培でも品質の高い点が評価され、部会長賞等の特別賞を獲得しました。「凜」は農業普及課が、産地と連携して令和2年度から露地栽培実証・課題整理に取り組んでおり、今後露地での安定生産を図ります。

(6) 畑かんマイスターと関係機関が畑かん水利用について意見を交わす (R4.2.9)

2月9日、知名町フローラル館にて畑かんに関する意見交換会が開催され、沖永良部島の畑かんマイスターと関係機関から併せて30人が参加しました。

新たな移動式散水器具である畑かんロールカーの沖永良部島における利用上の課題、水利用向上のためのアンケート実施、和泊町と知名町の水利用料金の統一に向けた現状等について、活発な議論が交わされました。

これらの意見や提言については、関係機関で検討を行い、今後の畑かん営農の推進に生かします。